

プログラム番号	06055
---------	-------

平成18年度「国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム」

【1. 大学の概要】

①大学名 研究科名	慶應義塾大学 理工学研究科		
②学長名	安西 祐一郎		
③所在地	〒108-8345 東京都港区三田2-15-45		
④担当者 連絡先	所属部局・職名	国際センター矢上支部・係主任	
	担当者氏名	三橋 紫	e-mailアドレス ic-yagami@adst.keio.ac.jp
	電話・FAX番号	045-566-1468 (電話), 045-566-1469 (FAX)	
⑤ホームページ URL	http://www.st.keio.ac.jp/		
⑥大学院在学留学生数	331 人 (うち、国費留学生 91 人)		

【2. プログラムの概略】

①プログラムの名称	慶應義塾大学大学院理工学研究科 先端科学技術国際コース
②プログラムの形態	修士課程+博士課程 (2+3 年間)
③実施研究科・専攻	理工学 研究科 開放環境科学 専攻
	(所在地) 〒223-8522 神奈川県横浜市港北区日吉3-14-1
④連携大学・研究科・専攻名	理工学研究科 基礎理工学専攻, 総合デザイン工学専攻
⑤受入れ学生数	40人 (修士20人、博士20人) (うち研究留学生優先配置人数: 修士6人、博士6人) (うち日本人学生数: 0人)
⑥担当教員数	合計 64人 (うち専任: 58人、兼担: 0人、非常勤: 6人)
⑦研究科長(代表者)名	所属部局・職名 総合デザイン工学専攻・教授
	研究科長名 稲崎 一郎

【3. プログラムの内容】

【慶應義塾大学とは】

慶應義塾大学は 1858 年に創立された日本で最も歴史のある私立大学であり、歴代何名もの首相や世界の著名人を輩出している権威ある大学です。その創設以来、慶應義塾の学生はあらゆる学問領域で活躍を続けており、特に理工学研究科の卒業生の多くは科学者やエンジニアとして日本の経済界や企業をリードしています。理工学研究科では 2003 年より留学生を対象とした先端科学技術国際コースを開設しました。様々な背景を持つ優秀な学生たちが世界中から集まり、最先端の技術と最高の学習環境を持つ本学で学ぶことにより、より大きく飛躍してくれる事を期待しています。

【コースの内容及び特色】

本コースは下記の6つのプログラムから構成されていて、各プログラムには、それぞれの専門を深く理解するための専門科目群が設置されています。修士課程の学生は指導教員の指示に従い選択したプログラムに設置されている専門科目を履修しますが、他のプログラムに設置される科目の履修も可能です。プログラムに共通する総合科目の中には、日本の経済状況や産業構造、日本文化を学ぶことを考慮した『科学技術文化特論』や、日本の実社会を体験し理解するため『学外特別研修(インターンシップ)』が設置されています。これらの科目構成により、自分の専門に関する深い知識だけでなく、多義にわたる教養を身につける事ができます。

プログラム名称

Nano Science Program(ナノサイエンスプログラム)、**Biomedical Engineering Program**(バイオメディカルエンジニアリングプログラム)、**Electronics and Photonics Program**(電子・光工学プログラム)、**Mechanics and Manufacturing Program**(機械・生産工学プログラム)、**Computer Science and Communication Technology Program**(計算機科学・通信技術プログラム)、**Environment and Multi-Scale Dynamics Program**(環境・多重スケール力学プログラム)

各プログラムの指導教員と科目一覧は以下のURLを参照してください。

http://www.st.keio.ac.jp/english/admissions/eng_prg_mstr/index.html

本コースの講義科目および論文指導は、すべて英語で行われます。ただし、当該講義科目の履修者全員が十分な日本語能力があると認められる場合は、日本語での講義となる場合もあります。

【教育・指導体制】

本研究科は従来型の縦割り教育(研究分野と一致した専攻体制)を改め、基礎理工学専攻、総合デザイン工学専攻、開放環境科学専攻からなる分野横断型の大専攻制を敷いています。

教員の所属する「専修」と呼ばれる教育・研究グループは、基礎理工学専攻、総合デザイン工学専攻にそれぞれ6つ、開放環境科学専攻には5つ設けられており、それぞれのプログラムに設置される「〇〇課題研究」および「〇〇特別研究」(〇〇は対応する専攻の名称)の指導および審査を受け持ち、国際コースのプログラムと連携した教育・指導体制をとっています。

それぞれの専攻または専修の教育・指導体制については以下のURLを参照してください。

開放環境科学専攻 http://www.st.keio.ac.jp/english/grad_open/

基礎理工学専攻 http://www.st.keio.ac.jp/english/grad_funda/

総合デザイン工学専攻 http://www.st.keio.ac.jp/english/grad_design/

【出願方法、学内選考方法等】

志願者の選考は、本大学大学院理工学研究科に設置する理工学研究科入学委員会が、原則として提出された必要書類により行います。ただし、場合によっては、志願者の出身大学あるいは在籍大学大学院所在地において、面接を施す事があります。出願日程などの詳しい情報は以下のURLを参照してください。

<http://www.st.keio.ac.jp/english/admissions/index.html>

【修了後に想定される進路】

2003年9月の開設から現在までに国費奨学金を付与された者は、ほぼ全員が後期博士課程に進学しています(その内4名は修士課程早期修了者)。また、2003年のプログラムでは日本語能力を問わない代わりに、生活上必要最低限の日本語学習のための講座を設置したところ、留学生のほとんど全員が受講しました。このことから、留学生の日本語・日本文化への潜在的な関心が高いことが推察され、国際コース修了者がなんらかの形で日本の大学・企業や、外国企業の日本支部などとの関連を保つことが見込まれます。

また、慶應義塾大学は卒業生組織のつながりが非常に強い事で知られており、その人脈は世界の主要都市にも展開されています。修了後にこれらの組織に参加することで、留学生同士に限らず日本人同窓生とも国際的なネットワークを構築することができます。

【学生生活】

日本語授業

希望者は慶應義塾の日本語教員による質の高い日本語授業を履修することも可能です。授業はレベルごとに分けられているため、一人一人のニーズに合った学習を短期間で行う事ができ、全く日本語の学習経験が無い場合もこの授業を履修する事によって、生活に必要な程度のコミュニケーション能力を身につける事が可能です。

宿舎

本コースに入学する留学生は、キャンパスまで徒歩圏内の慶應義塾大学の学生寮に原則二年間入居する事ができます。寮には日本人学生がレジデンスアシスタントとして入居しており、日常生活のサポートの他、各種懇親会やイベントの企画なども行っています。

また、自分でアパートを探す場合には、保証人や契約のサポートも大学事務室で行っています。

奨学金

文部科学省奨学金を取得して本コースに在籍するものは、修士課程の2年間に加えて博士課程3年間の最大5年間奨学金を受給する事が可能となっています。

支援組織

キャンパス内には有志の日本人学生や卒業生からなるサポート団体があり、来日直後の諸手続きや歓迎パーティ、日用品調達の為のバザーなどを開催しています。

課外活動

矢上キャンパスと、その隣接の日吉キャンパスには多くの学生サークルが存在しています。留学生の方でも、それらの活動に参加してキャンパス内のスポーツ施設を利用する事も可能です。スポーツだけではなく、囲碁など日本の伝統的なゲームを日本人学生と楽しむこともできます。

【矢上キャンパス概要】

理工学研究科のある矢上キャンパスは首都東京から電車でわずか30分の横浜市に位置しています。横浜は日本第2の規模を誇る大都市ですが、海も近く、自然も多く残されており、留学生活を送るに相応しい美しい街です。

教員数: 285名(教授:140名、助教授:72名、講師:34名、助手:39名)

職員数:154名、学生数:6,287名(学部:4,486名、大学院:1,801名)

留学生数 156名(学部:35名、修士:49名、博士54名、研究生18名)

蔵書数 図書:129,757冊、雑誌:211,628冊

研究費 3,602,539,181円(平成16年度)

(以上)